

# 希望を共に創る時代に 認知症の 本人の声を活かそう

## SPECIAL FEATURE

2025年には認知症の高齢者が700万人になると推計されており、若年性認知症の方を含めて認知症の本人の声を重視し、認知症の本人にやさしい地域づくりが急がれています。

そのような中、多くの認知症の本人が地域で希望を持って尊厳のある存在として暮らし続けていけるよう活動しています。

国は、認知症の本人が認知症と共によりよく生きていけるよう、その意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現をめざし、2019年6月に「認知症施策推進大綱」をまとめました。大綱の中では、具体的な施策として本人発信支援が掲げられています。

本特集では、認知症の本人の声をさまざまな形で紹介させていただいています。その声が皆さまのところに届き、看護に活かされることを願っています。

# 看護

2020年11月臨時増刊号 第72巻 第14号

日本看護協会機関誌

Journal of the Japanese Nursing Association November 2020 Volume 72 / Number 14

総特集

## 希望を共に創る時代に 認知症の本人の声を活かそう

### 1章 メッセージ

- 1-1** 認知症の当事者となった私から未来に向けて  
..... 長谷川 和夫 006  
Column 認知症バリアフリーの取り組み① 永田 久美子 010
- 1-2** 本人が希望を持てる支援とは  
本人の声をもとに、本人とともに ..... 藤田 和子 011  
Column 認知症バリアフリーの取り組み②③ 永田 久美子 021・022

### 2章 解説

- 2-1** 本人の声を活かした看護を実践していくために  
看護本来の立場や力を大切にしよう ..... 永田 久美子 024
- 2-2** 治療に活かす本人の声を聴く  
精神科医の立場から ..... 繁田 雅弘 034
- 2-3** 認知症の人が希望を持って生きていくための国の取り組み  
..... 菱谷 文彦 040  
Column 認知症バリアフリーの取り組み④ 永田 久美子 044

## 3章 報告 本人の声を活かした取り組みの実際

- 3-1 認知症当事者が相談員として働く認知症カフェ**  
自身の体験を語り、ピアサポートや啓発活動に活かす…………… 渡邊 康平・井川 咲子 046
- 3-2 認知症の本人を笑顔にするために**  
…………… 丹野 智文 054
- 3-3 企業と協働・連携し、「はたらくこと」で社会とつながる**  
…………… 前田 隆行 061
- 3-4 若年性認知症の方の居場所づくり**  
社会の中でやりたいことを一緒に実現…………… 岡田 眞理 070
- 3-5 認知症を生きるご本人から教えていただいたこと**  
ひたすらに声を聴き、自分らしく生ききる日々を共に…………… 櫻井 記子 077
- 3-6 最期まで本人の思いに沿った生き方を支援するために**  
…………… 住友 幸子 085
- 3-7 認知症の人と共に「忘れても、生き生き暮らせる」地域づくり**  
高齢者・こども110番地域食堂「きたほっと」を拠点に…………… 青山 由美子 093
- 3-8 急性期病院・認知症コーディネーターとしての  
本人の声を活かした看護**…………… 江川 陽子 099
- 3-9 認知症の人の声に誠意を持って応え、向き合う看護**  
…………… 石川 容子 107

## 4章 関連報告

- 4-1 医療・介護と成年後見制度**  
…………… 山野目 章夫 114
- 4-2 認知症の人の思いに関する調査結果について**  
…………… 荻山 和生 120
- 4-3 オンライン会議システムを活用した  
認知症の人のつどいの場づくり**…………… 鬼頭 史樹 126
- Column** 希望のリレー発信をつないでいきたい 川崎 千世子 133

★本誌内容の無断複写・転載は著作権法で禁じられています。本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込み、および送信(送信可能化権を含む)・上映・譲渡に関する許諾権は、株式会社日本看護協会出版会が保有しています。

**JCOPY** (出版者著作権管理機構 委託出版物) 本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、その都度事前に一般社団法人出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、email: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

### 1-1

# 認知症の当事者となった私から 未来に向けて

長谷川 和夫

認知症介護研究・研修東京センター 名誉センター長  
聖マリアンナ医科大学名誉教授

認知症研究の第一人者である長谷川和夫さんは、自身が認知症となった現在も、認知症やそのケアについて当事者の視点で発信されています。認知症になってわかったこと、そして、よりよいケアの可能性について、これまでのご発言からまとめました。

## 認知症に取り組んだ私の半生

私はもともと、てんかんと臨床脳波学を専門とする精神科医でした。その後、認知症に深くかかわるようになって半世紀以上になります。最初に、私と認知症とのかかわりについて振り返ってみたいと思います。

### 1. 「長谷川式簡易知能評価スケール」の開発

精神病理学や老年精神医学の大家として知られ

#### 略歴

1929年愛知県生まれ。1953年東京慈恵会医科大学卒業。1974年「長谷川式簡易知能評価スケール」(改訂版1991年)を公表。「パーソン・センタード・ケア」の普及に尽力し、認知症医療だけでなくケアの第一人者としても知られる。2017年自らの認知症を公表。

ていた恩師の新福尚武先生との出会いが認知症に深くかかわるようになるきっかけでした。1968年に、東京都内の福祉施設を中心に、どのくらいの人に認知症の症状があるかを調べることになり、新福先生から「昨日と今日で見立てが違ってはいけないから、診断の物差しをつくってはどうか」とすすめられたのです。海外にも参考になるものはなく、頭を抱えましたが、体力が低下した高齢者にも短時間で行えること、そして知的機能が正常な人には簡単に答えられるけれども認知症の人には答えるのが難しい質問をと考えました。



長谷川和夫さん近影  
(2020年6月撮影)

こうして出来上がったのが「長谷川式簡易知能評価スケール」です。

1974年に11の質問項目からなる「長谷川式簡易知能評価スケール」を公表し、その後1991年には9つの質問項目からなる改訂版を公表しました。ありがたいことに現在も全国の医療機関で、この改訂版は使われています。

## 2. 大学病院での認知症デイケア

認知症の診療のため多くの人が病院に訪れるようになった1983年、私は聖マリアンナ医科大学に赴任して10年目を迎えていました。外来では1人の患者さんに多くの時間は割けません。ご家族にも持続的な相談や指導が必要です。そこで考えたのが、外来診療の延長としてのデイケアです。

当時、認知症の人を対象にしたデイケアは未知の領域であり、何もかも手探りの状態でしたが、患者さんには人と人との交流によって心の働きを活性化することを目的にさまざまなプログラムを行い、その間、ご家族には悩みを話していただき相談に乗ることとしました。

週1回、4カ月間を1クールとしたこのデイケアは13年ほどで一定の役割を終えました。私自身、診察室の中だけではわからなかった多くのことを学んだと思います。

## 3. 「痴呆」から「認知症」への改称

このように、私は認知症の診療や研究で多忙な日々を送っていましたが、当時使われていたのは「認知症」ではなく、「痴呆」という診断名です。差別的なニュアンスがあるとして、「痴呆」に替わる用語に関する検討会が設置されたのは2004年。私もメンバーとなりました。私が最初から提案していたのは、認知機能が障害を受けた状態を



認知症介護研究・研修  
東京センター センター長時代

表す「認知症」という言葉でした。ほかにも、いろいろな候補がありましたが、最終的に全委員一致で「認知症」と決まり、この用語は急速に広まりました。

## 当事者となった私

今、私は91歳。そして、認知症です。認知症の診療・研究に取り組んだ末に自分自身が当事者となったのです。自分が認知症になるとは思っていませんでしたが、これで私も、ようやく本物の認知症研究者になれたのではないかと思います。

自分が認知症になったのではないかと、思い始めたのは2016年ごろです。どうも、おかしい。自分のしたこと、しなかったことに確信が持てなくなりました。例えば、家を出るときに鍵をかけるでしょう。鍵をかけたかどうか不安になって確認しに戻る、といった経験は誰にでもあると思います。しかし、確認したら、それ以上は心配せずに出かけます。それが正常な反応です。けれども、自分のしたこと、確かさが揺らいでくると、確認したこと自体もあやふやになって、いつまでたっても確信が持てないのです。

今日が何月何日かも、自分の予定もわからない。日にちを確認しても、またすぐに忘れてしまう。

# 看護 臨時増刊号

11 November  
2020

Volume 72 Number 14

日本看護協会 機関誌  
Journal of the Japanese Nursing Association

発行・発売 2020年11月5日

発行所 株式会社日本看護協会出版会  
東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル4階  
Tel. 0436-23-3271 (コールセンター：ご注文)  
振替 00190-8-168557  
東京都文京区関口2-3-1  
Tel. 03-5319-8017 (編集直通)

発行人 井部俊子

編集委員 勝又浜子／橋本美穂／吉村浩美／坂路幸恵／伊藤雄介 (日本看護協会)

アドバイザー委員

(五十音順) 大野千秋 (長谷川病院)・清水將統 (北里大学病院)・  
鈴木英美 (国立病院機構東京病院)・中根直子 (日本赤十字社医療センター)・  
林勝枝 (上尾中央医科グループ協議会)・樋浦裕里 (東京さくら病院)・  
福地洋子 (調布東山病院)・藤田あけみ (取手北相馬保健医療センター医師会病院)

編集 阿部真里子

編集協力 石川奈々子・株式会社自由工房

表紙デザイン 白井新太郎

印刷 図書印刷株式会社

定価 本体2,000円+税